

愛知県東加茂郡足助町

し ろ や ま じ ょ う

城山城跡

遺跡現地説明会資料



(財)愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター
<http://www.maibun.com>

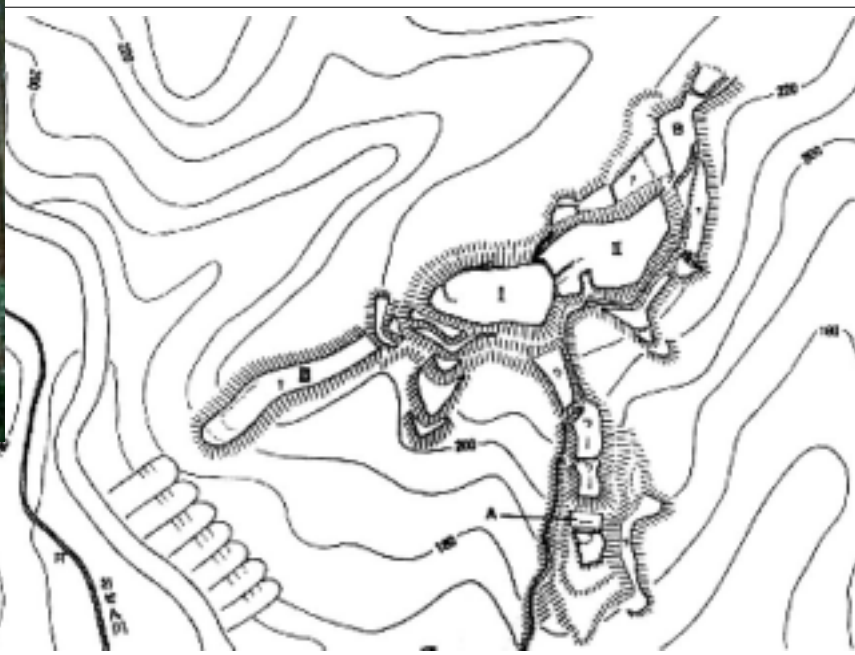
1. 城山城跡とは？

城山城跡は東加茂郡足助町大字足助字引陣・城山に所在する戦国時代(15世紀から16世紀)の山城跡です。山城は、山にこもって戦う戦術の広まりとともに、南北朝時代(14世紀)頃から日本列島各地でつくられるようになった、城郭の一形態です。

足助町の市街地は山地に囲まれたせまい谷の中にあり、谷の中央を足助川が東から西に流れています。城山城跡はその市街地を見下ろす北側の山地につくられています。城山城跡の標高は175m～230mで、最高地点と市街地との高低差は約100mあります。最高地点にはやや広い平場があり、主郭と考えられています。そして主郭推定地の南西には通称「馬場」という細長い平場があり、ここも主要な曲輪の一つだったと想定されます。これら主要な曲輪の北側は急斜面になっています。一方南側は4つの尾根がのびており、曲輪の可能性のある平場がいくつか確認できます。これらを踏査して図化したものが、縄張図です。なお、足助教会付近の平場に城主が日常暮らした館があったのでは、とも言われています。



南からみた主郭推定地



佐分清親氏による城山城跡縄張図(「愛知県中世城館跡調査報告」愛知県教育委員会1994より)

鱈鑿氏による城山城跡縄張図(「足助の中世城館」足助町教育委員会2001より)



足助町の市街地と山城群

2. 周辺の遺跡と山城

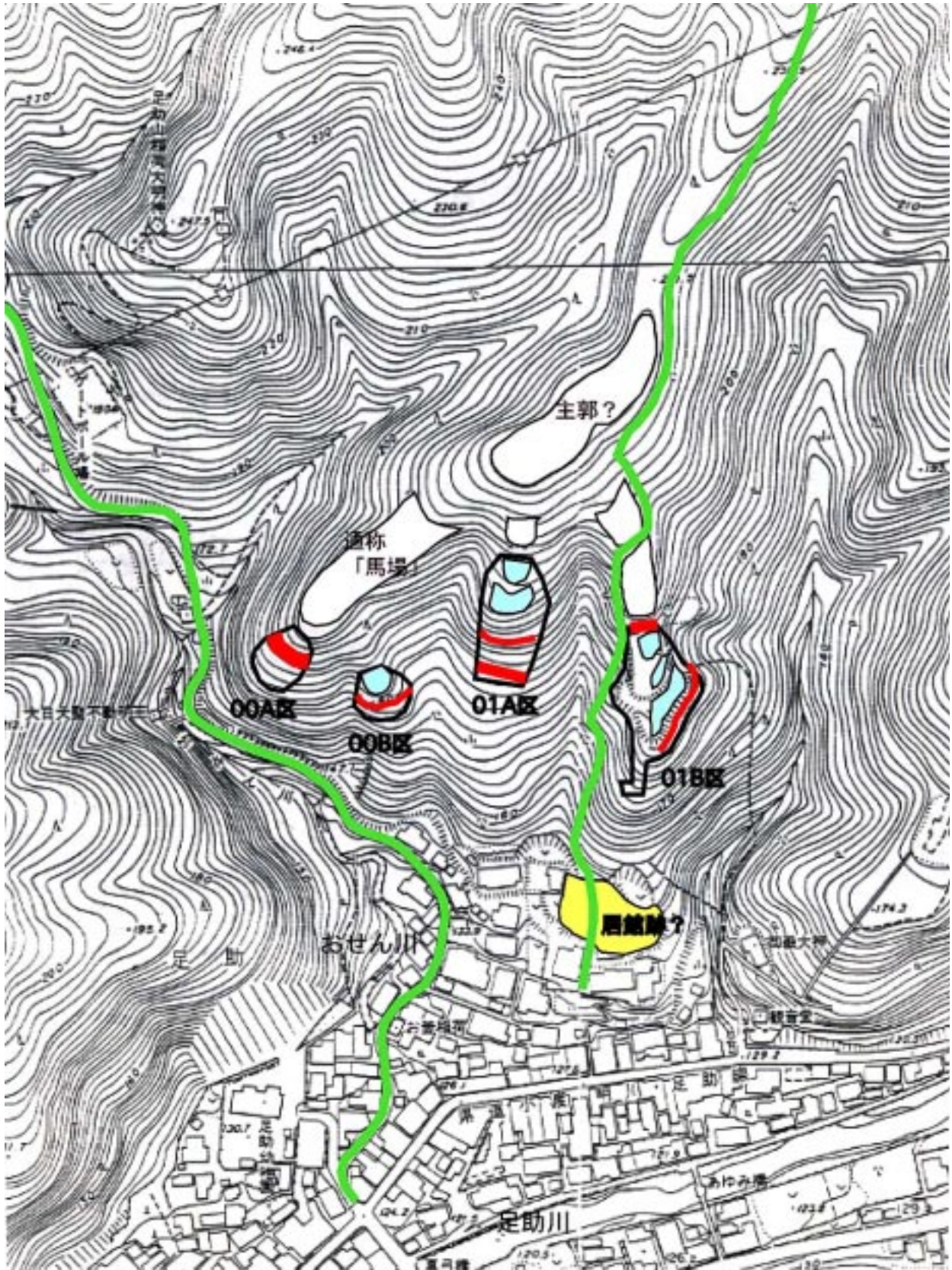
縄文時代、人々は山間部に分散して暮らしていたようです。今朝平遺跡^{け さだいらい せき}は縄文時代晩期の特徴的な土偶が出土していることで有名です。市街地のある谷の中に人々が集住し始めるのは、飛鳥時代(7世紀)以降のことで、八幡宮^{あざいしばし}近辺や字石橋で遺物が確認されています。紅葉の名所飯盛山にある香積寺^{こうしゃくじ}は、鎌倉時代(13世紀)に足助を支配した足助氏の館跡と考えられ、門の所に今でも土塁が残っています。飯盛山山頂からは和鏡や刀子が出土しています。お経を埋めた経塚があったとみられます。足助八幡宮本殿再建は文正元年(1466年)の棟札から知ることができます。

鈴木氏が支配する戦国時代には、市街地周辺に多くの山城が築られました。真弓山城跡は、鈴木氏が本拠とした城です。主郭などの曲輪では、発掘調査によって掘立柱建物の柱穴や多数の陶磁器が検出され、それらの知見をもとに建物が復元整備され、現在「足助城」として一般に公開されています。



飯盛山経塚出土の鏡
(足助資料館蔵)

3. 調査の経緯



城山城跡の調査位置図

今回の発掘調査は、国道153号足助バイパス建設工事に伴う事前調査として、国土交通省名四国道工事事務所から愛知県教育委員会を通じて委託された事業です。平成12・13年度の11月から3月まで実施するものです。

4 . 平成 12 年度の調査成果

00A 区は「馬場」平場の西側を画する堀切が確認されました。上幅 7.5m の箱堀です。「馬場」平場から堀底までの高低差は約 10m あります。



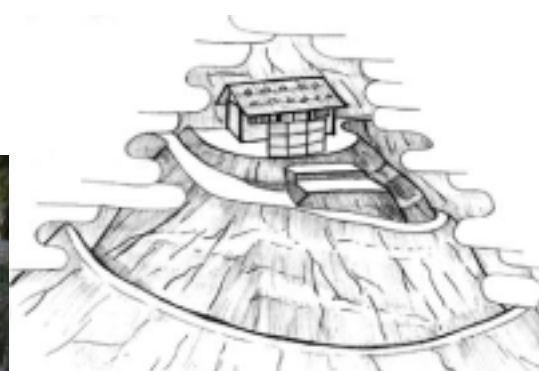
山城西端の堀切（00A 区）



雪の日の作業（00A 区）

00B 区は、「馬場」平場の南側に張り出した腰曲輪で、周囲を切岸と横堀で守られています。横堀は薬研堀です。また、平場上では掘立柱建物跡（1 間 × 3 間）と、その前面に柵または塀とみられる柱列が確認されました。

遺物は、柱穴や切岸などから 16 世紀頃の土師器鍋やすり鉢などが出土しています。



腰曲輪の想像図（00B 区）



腰曲輪の掘立柱建物跡
人の位置に柱が立っていた（00B 区）

腰曲輪の切岸と
横堀（00B 区）



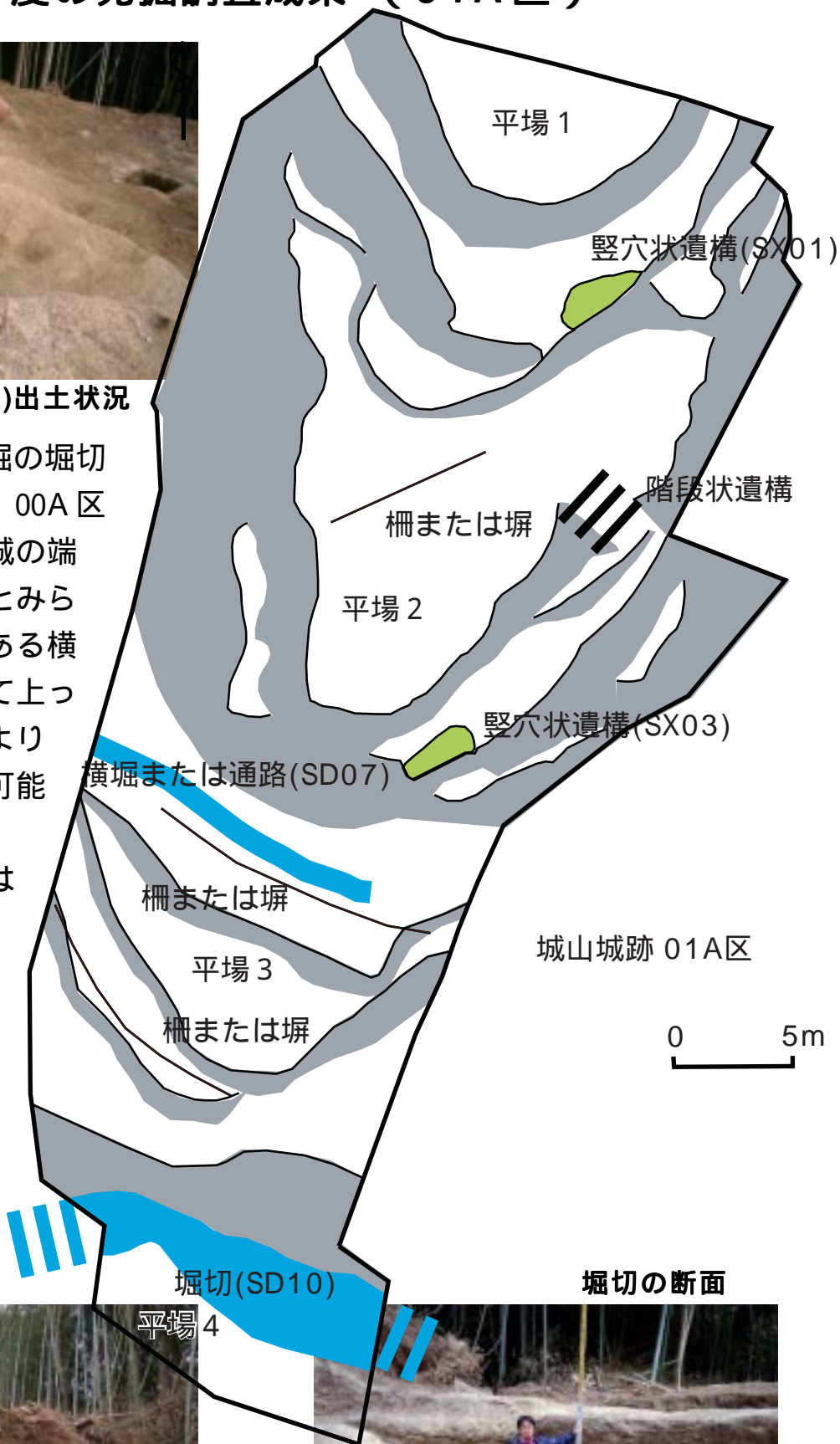
5 . 平成 13 年度の発掘調査成果 (01A 区)



縦穴状遺構(SX01)出土状況

01A 区では、箱堀の堀切が確認されました。00A 区の堀切同様、城山城の端を画していたものとみられます。平場 3 にある横堀は、東へ向かって上っており、堀というより通路の一部だった可能性が高いです。

平場の縁近くには^{たてあなじょういこう}縦穴状遺構があり、戦国時代のすり鉢などの雑器の他に、輸入品の^{せいじ}青磁が出土しています。

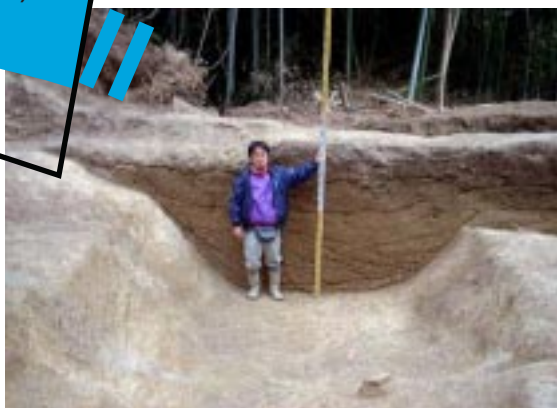


0 5m

堀切北側の切岸



堀切の断面



6. 平成13年度の発掘調査成果 (01B区)



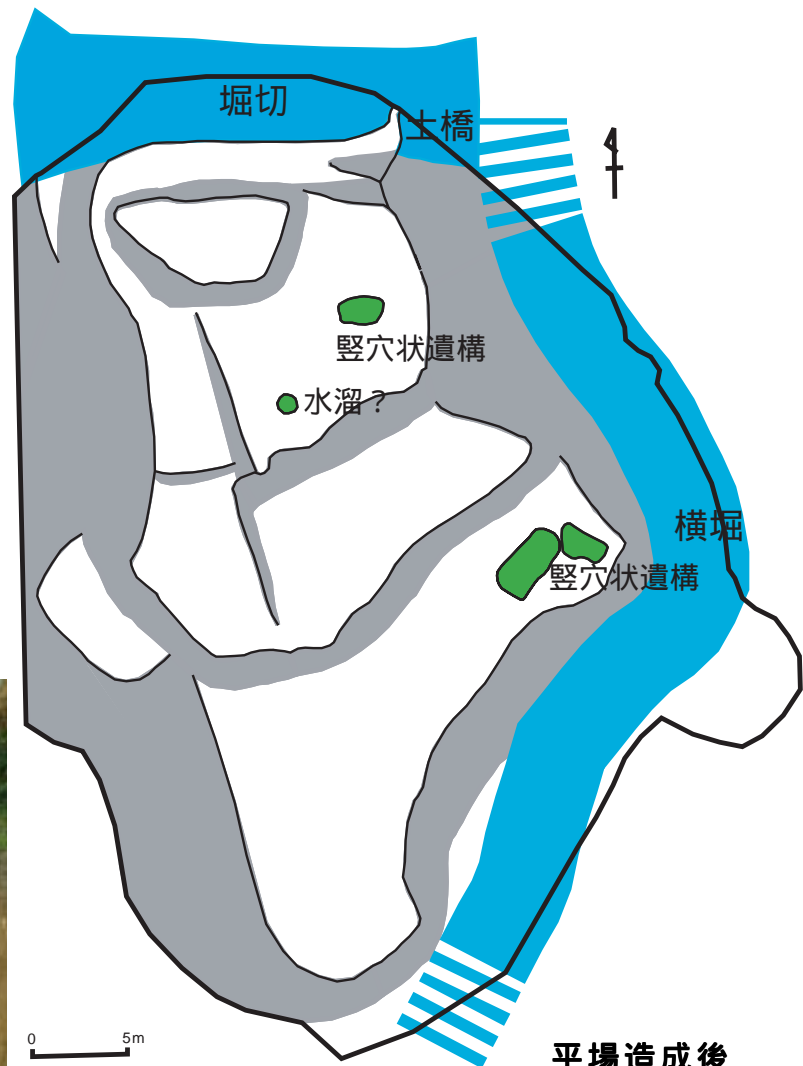
堀割状通路の時期(1期)



通路を埋めて造成された平場群で確認された遺構

1期は、深さ2.5m以上の堀割状の通路が、尾根筋を南から北へ上っている時期です。一旦くびれ、箱形のやや広い空間(8×10m)があり、ここでは階段も確認されました。

2期は、1期の通路を粘土れきや礫で埋めてできた平場群の上に竪穴状遺構がつくられる時期です。16世紀前半～半ばの陶器が出土しました。また、下方をめぐる横堀はこの時期に対応していると考えられます。堀切は、横堀と同じ薬研堀です。したがって、この時掘られたか、あるいは改修されたとみられます。



平場造成後の状態(2期)



堀切の断面

7 . 足助の戦国時代と城山城跡 ~ まとめにかえて ~

各調査区での成果をまとめてみましょう。

- (1) 全ての調査区で、敵兵の侵入を防ぐための堀切・横堀のいずれかが確認されました。これらは城郭の最前線を防衛するラインでした。
- (2) 堀切に2種類あること。00A、01A区では箱堀、01B区では薬研堀です。これらは違う時期につくられたか、あるいは違う造営集団によってつくられたものと考えられます。
- (3) 01B区で確認された通路遺構は、出入口に関わる空間を設けていることなどから、麓^{ふもと}から主郭へ上る重要なルートだったと考えられます。
- (4) その通路を粘土でもって埋めて平場をつくるという大規模な改修をおこなっている点です。よほどの事情があったに違いありません。

では、「よほどの事情」とはどういった事情なのでしょう？ここで文献史料で知ることのできる、足助の16世紀の歴史を概観してみましょう。

大永5(1525) 松平清康が2000騎で足助に進攻。鈴木重政、臣従する。

天文4(1535) 清康、殺害さる。重政、妻(清康妹)を岡崎に送還する。

天文17(1548)~24(1555) 岡崎の今川軍とたびたび交戦する。

永禄5(1562)~永禄8(1565) 松平元康(徳川家康)の軍勢が、数回にわたり足助に押し寄せ、鈴木重直、降伏しこれ以降臣従する。

元亀2(1571) 3月、武田信玄・勝頼、25000の兵で三河に侵入開始。

4月、鈴木重直・信重父子、足助城(松山城)を攻略され、降伏。大沼・八桑城などの支城は「自落」する。下條信氏が城代となる。

天正元(1573) 松平信康(家康長男)3000余騎で足助城の武田勢を駆逐、鈴木信重を城主に復帰させる。

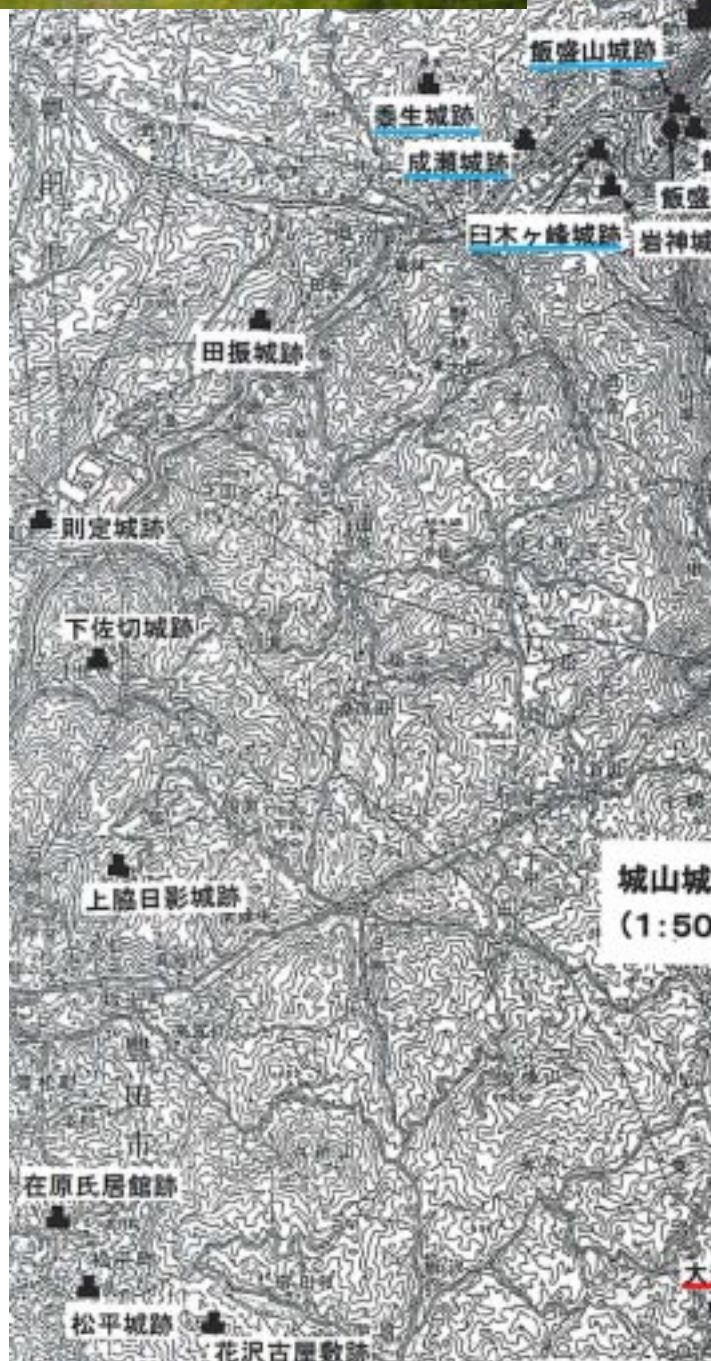
天正3(1575) 武田勝頼、再び三河へ進攻(「あすけ口」まで)。長篠の戦い。

ちょうど、平場造成・横堀掘削をおこなった16世紀中~後葉は、足助の平和が外部から脅^{おびや}かされる、ひっ迫した情勢下だったのです。とくに足助城下が武田軍に占領された元亀2(1571)年を中心とする時期は、その最たるものだったと考えられます。城山城跡とこれら事件を直結する史料はありませんが、今回確認された遺構・遺物をさまざまな視角から分析を続けていくことで、その糸口をつかんでいきたいと思えます。

飯盛山城跡



足助



真弓山城跡

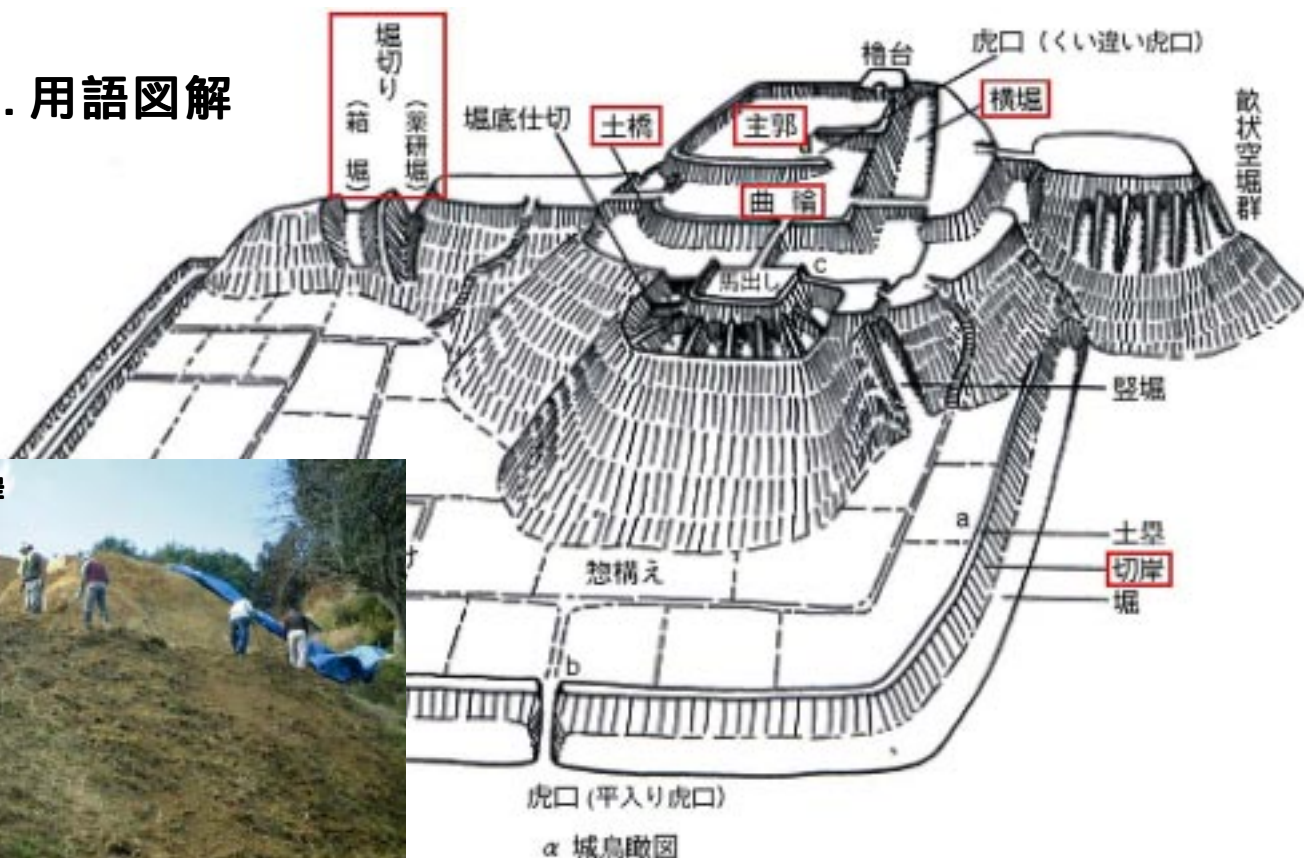


城山城跡周辺の主な城館と遺跡分布図
(1:50,000)

—— 足助七屋敷
—— 足助七城

「足助七屋敷」は、足助氏が支配した時代(鎌倉時代)につくられたとされる城館、「足助七城」は、鈴木氏が支配した時代(戦国時代)につくられたとされる城館、といわれている。なお、「足助七城」の阿須利・田代城は図の外にある。

8 . 用語図解



中世城郭の概念図（「城城郭調査ハンドブック」より）

- 主 郭（しゅかく）：城の中核。本丸ともいう。
- 曲 輪（くるわ）：城や要塞のような構築物の周囲にめぐらす土手や石垣のこと。さらにその内側をいう。
- 堀 切（ほりきり）：尾根を横断するように構築された堀。尾根伝いに進む敵兵の侵入を防ぐ。
- 横 堀（よこぼり）：曲輪などを囲むようにしてほぼ水平方向にのびる堀。山城の場合、水のない空堀である。
- 箱 堀（はこぼり）：断面が逆台形を呈する堀。
- 薬研堀（やげんぼり）：断面がV字形を呈する堀。特に下部は急激にすぼまる構造。
- 切 岸（きりぎし）：自然の斜面を削ってつくられた人工的な急斜面。横堀や堀切などと組み合わせることで、より防御性を高めることができる。